

大会名 Competition	第21回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-101	Year Month Day Time 2008 年 5 月 3 日 9 : 00
場 所 Place	能代市総合体育館



チーム A		チーム B															
能代工業	<table border="1"> <tr><td>26</td><td>1st</td><td>13</td></tr> <tr><td>22</td><td>2nd</td><td>15</td></tr> <tr><td>22</td><td>3rd</td><td>13</td></tr> <tr><td>22</td><td>4th</td><td>17</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	26	1st	13	22	2nd	15	22	3rd	13	22	4th	17	OT			春日部
26	1st	13															
22	2nd	15															
22	3rd	13															
22	4th	17															
OT																	
92 ○		58 ●															

主審:Referee  
石田 祐二 神奈川県  
副審:Umpire  
小野寺 浩 秋田県  
テーブル・オフィシャルズ:Table officials  
大館国際高等学校

No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	Pl-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	高橋 陽	CAP	0	0	0	0	3	4	/	摩庭 大河	CAP	0	0	0	0	0
5	×	武藤 修平		17	0	8	1	1	5	×	清水 隆亮		19	2	5	3	2
6	×	館山 健太		37	7	6	4	1	6	×	新田 華武伊		2	0	1	0	3
7	/	飯田 啓人		0	0	0	0	1	7	×	藤森 康平		5	1	1	0	2
8	×	伊藤 伸高		5	1	1	0	2	8	/	川崎 裕介		2	0	1	0	0
9	×	湊 大樹		14	4	1	0	0	9	/	富澤 佑也		4	0	2	0	0
10	/	藤田 洸		2	0	1	0	0	10	×	境 一樹		8	0	4	0	1
11	/	小川 昌志		2	0	1	0	1	11	/	高葉 龍		0	0	0	0	0
12	/	宮城 大喜		6	0	3	0	1	12	/	池澤 舜		9	2	1	1	0
13	/	熊坂 兼		0	0	0	0	2	13		渡辺 隼人		-	-	-	-	0
14	/	佐藤 文哉		0	0	0	0	0	14	/	小原 佑真		0	0	0	0	0
15	/	西島 宏哉		2	0	1	0	1	15	/	田中 颯		0	0	0	0	0
16	/	亀山 悟史		2	0	1	0	1	16	×	倉林 紀和		6	2	0	0	2
17	/	三上 翔平		2	0	1	0	1	17	/	時野谷 勝幸		0	0	0	0	0
18	/	伊藤 雄太		3	1	0	0	0	18	/	秋元 政彦		3	1	0	0	0
コーチ		佐藤 信長							コーチ		伊澤 暁						
Aコーチ		安保 敏明							Aコーチ		山岸 率						
合 計				92	13	24	5	15	合 計				58	8	15	4	10

※ ×:スターター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P\* イントシュート 2P:2P\* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第21回能代カップ開幕戦、佐藤新監督で臨む能代工業と今年度、地元インターハイ開催で出場をうう春日部との一戦。両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスで始まる。

第1Q、出だし能代#9湊が連続3P、#6館山がミドルシュートを決めるなど、8-0と幸先よいスタートを切る。一方、春日部は#10境がインサイドから連続得点し、8-4と入れ返す。能代は#5武藤がインサイドで力を発揮し始め、着々と加点する。残り6分には、16-4と12点差に開く。春日部はシュートが単発に終わり、なかなか点差を詰めることができず、26-13と能代13点リードで第1Q終了。

第2Q、能代のパスカットからの速攻や#9湊、#6館山らが中、外からバランスよく得点する。春日部は#5清水が3Pを決めるが、後が続かず苦しむ。終了間際、能代#12宮城がミドルシュートを決め、48-28と20点リードしたところで第2Q終了。

第3Q、能代は#12宮城の速攻や#8伊藤の3Pなどで加点し、能代のペースは変わらない。春日部はシュートが決まらず、7分間ノーゴール。残り3分すぎから#7藤森が3Pや#16倉林がシュートを入れ始めるが、70-41とさらにリードが広がって第3Q終了。

第4Q、能代#7館山が3Pを確実に決め、得点を伸ばしていく。80-41となったところで春日部は、ディフェンスをオールコートプレスに変え、能代のミス誘いながら反撃が出る。ここから一気に差を詰め始め、82-51とする。その後、能代はガード陣が落ち着いてボールを運び、主導権を握ったまま試合を進める。結局、92-58で試合終了。能代が初戦を勝利で飾った。